発寒ひかり
保育園だより

2020年
2月号

巻頭言

年が明けたある日の自由遊びで、子どもたちが年賀状ごっこをしていました。内容は「パパ、いつも遊んでくれてありがとう」など家族への愛のメッセージでいっぱいの年賀状でした。「こんな素敵な年賀状をもらったら喜ぶね」と声をかけると、照れたような、嬉しそうな表情を見せていました。

ことり(1歳児)組の子どもたちも、ハサミを使って紙を切り「ママに見せるんだ」と大好きな家族のことを考えながら遊んでいました。同じ空間にいなくても、いつでも心がつながっていることが、子どもたちの様子から伝わってきます。

ですが、子どもたちからの「抱っこして」や「手伝って」の声に、忙しい時や子どもの自立のためにと、「もうお兄ちゃんなんだから」と言ってしまうことありませんか？私自身、小学生の長男が「おんぶして」と甘えてきた時に「今は忙しい」と断ったことがあります。しかし、自分でできることをあえて甘えてくる子どもの心境を考えると、やはり「大好きだよ」という子どもからの愛のメッセージだと感じました。そして、「いつまで抱っこさせてくれるかな」と考えると、想像以上に時間がないことに気づかされます。限りある子どもとのふれあいの時間を思う存分楽しみ、甘えてくれる喜びを感じることも親になった特権だと私は思います。

とは言え、甘えを受け止めるには、心の余裕が必要です。仕事や育児に疲れた時やホッとしたい時など、いつでも職員にお声がけください。心が軽くなるお手伝いができると嬉しいです。今しかない乳幼児期の子育てを一緒に楽しみましょう。

副主任保育士　笛木　菜未